

ニュース 玉手箱



税金とお金の大切さ学ぶ



税 とお金の大切さについて学ぶ税金教室が各小学校で開催されました。

これは町役場町民税務課職員が講師となって毎年開かれているもので、子どもたちが実感する機会のない税金について知ってもらうため、買い物した際の消費税、あったまりランド深堀を利用した際の入湯税など身近な事柄を例に出して様々な税金やその使い道について説明しました。また、1億円のサンプルを持って重さを体感してもらうコーナーもあり、子どもたちはお金と税金の大切さを学びました。このほか大石田中学校では、ふるさと納税をテーマにした税金教室が行われました。

正しく知ろう認知症

認 知症サポーター養成講座が大石田中学校で1年生を対象に11月28日(木)に行われました。これは生徒たちに認知症について理解を深め、地域や家庭において認知症の人を温かく見守ってもらうことを目的に町と地域包括支援センターが開いたものです。

講座では地域包括支援センターの関智恵子さんが認知症は脳の病気であることや単なる物忘れと認知症の違い、認知症の症状を説明しました。その後、生徒が認知症の高齢者とその家族の役に分かれてロールプレイングが行われ、認知症の方への接し方について理解を深めていました。



高齢者に手作り年賀状

町 内3保育園の園児が町内の73歳以上の一人暮らし高齢者に手作りの年賀状を送りました。これは、町交通安全推進協議会が高齢者の交通安全と健康を呼びかけるため毎年実施しているものです。

ふたば保育園では12月11日(水)に5歳児が、来年の干支にちなんで、人気絵本のキャラクターで野ねずみの「ぐりとぐら」を、折り紙を使って描いた年賀状を作りました。交通事故にあわず元気で明るく過ごせますようにと心をこめて作った年賀状は、132人の一人暮らし高齢者に届けられる予定です。



長〜い自然薯採れました

自 然薯の収穫体験が大石田南小学校で11月18日(月)に行われました。南小では毎年、大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力により6年生児童が春に種芋植え、秋に収穫体験を行っています。

収穫体験は研究会メンバーのほか、苗を提供し、自然薯を使った料理を開発している村山産業高校農業部の生徒も参加して、研究会が管理する学校わきの畑で行われました。児童は研究会や高校生の指導のもと、土を掘り起こして長いもので1メートルほどに成長した自然薯を次々に引き抜き、収穫を喜びました。学校では研究会のメンバーを招いた収穫感謝祭を開き、自然薯料理を楽しみました。



干支人形作りで交流

干 支の木目込み人形を作る「きらめき女性セミナー」が11月16日(土)に虹のプラザ小会議室で開催され町内の女性7人が参加しました。このセミナーはモノづくりを体験しながら参加者同士の交流を楽しんでもらおうと毎年この時期に行われているものです。

参加者は講師の吉田弘美さん(東町)指導のもと、霧の粉を固めて作った型に色鮮やかな布を押し当てて飾り付ける木目込み人形の手法で、来年の干支・ねずみの人形作りを楽しみました。参加者らは会話を弾ませながら、赤や金色の布を用いて華やかでかわいらしい人形を作っていました。



仁風荘で新そば振る舞い

大 石田そば道楽の会(阿部榮会長)による打ちたて茹でたての新そばの振る舞いが12月4日(水)に仁風荘で行われました。振舞ったそばは、出来たてのおいしさを味わってもらおうとそば道楽の会のメンバーがこの日朝早くから打ったもので、仁風荘の利用者のほかデイサービスの利用者や職員などに150食のそばが提供されました。

茹でたてのそばが提供されると利用者らは笑顔で味わい、会のメンバーは「おいしいですか」、「元気に過ごしてね」などと声をかけて施設をまわり、利用者をいたわっていました。

